

当院における 2 個移植の成績および単一胚移植との比較

玉田 いつみ¹、中野 達也¹、佐藤 学¹、中岡 義晴¹、森本 義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

一般的に多胎妊娠は単体妊娠よりも産科的リスクが高く、日本産科婦人科学会でも多胎妊娠防止の為単一胚移植を推奨している。しかし、女性の年齢が 35 歳以上、または 2 回以上続けて妊娠不成立であった場合は 2 個移植を許容していることから、反復不成功症例や高年齢症例には有効な手段とされている。そこで、当院にて単一胚移植と 2 個移植を行った患者の、妊娠率と出産率、さらに多胎妊娠の割合と多胎児出産した割合を比較した。

【方法】

2017 年から 2021 年間で当院にて移植を行った患者を 2 つの年齢群 (35 歳~39 歳 (検討 1)、40 歳以上 (検討 2)) に分け妊娠率と多胎妊娠の割合、出産率と多胎児出産した割合を求めた。

【結果】

検討 1 (単一胚移植 : 3231 周期、2 個移植 : 531 周期)

単一胚移植の妊娠率は 40.4% (うち多胎妊娠の割合 1.2%) 出産率は 30.6% (うち多胎児の割合 1.2%) であった。2 個移植の妊娠率は 44.6% (うち多胎妊娠の割合は 22.4%) 出産率は 30.3% (うち多胎児の割合は 19.3%) であった。

検討 2 (単一胚移植 : 2257 周期、2 個移植 : 1900 周期)

単一胚移植の妊娠率は 21.7% (うち多胎妊娠の割合は 1.0%) 出産率は 13.6% (うち多胎児の割合は 1.3%) であった。2 個移植の妊娠率は 21.4% (うち多胎妊娠の割合は 14.0%) 出産率は 10.9% (うち多胎児の割合は 10.6%) であった。

いずれの検討でも、両群の妊娠率と出産率に有意な差はなかった。しかし多胎妊娠の割合と多胎児出産した割合は 2 個移植群で有意に上昇した ($P>0.01$)。

【考察】

今回の検討では各年齢において単一胚移植群と 2 個移植群では妊娠率、出産率ともに差はなかった。しかし、2 個移植となる症例は反復不成功症例が多いものの、2 個移植を行うと通常と同等の結果が得られるとも考えられる。また、2 個移植群では多胎児出産の割合が 2 個移植群で増加したため、複数移植による多胎リスクは避けられないものであると考えられる。以上のことから、患者に複数移植を勧めるときは今回の結果のようなリスクとメリットを提示していくのがよいのではないか。